

第1回リフレかやの里官民対話 協議内容

日時	令和6年3月18日(月) 15時30分～17時00分
場所	元気館2階 視聴覚室
参加者 (敬称略)	(福)よさのうみ福祉会 藤原さゆり (福)よさのうみ福祉会 矢嶋広和 対話アドバイザー：三交興業(株) 営業推進部長 西野彰二 対話アドバイザー：与謝野町観光協会 会長 安達幸三 農林環境課 課長 三田大智 農林環境課 主事 森岡佳祐
司会(進行)	三田大智

会議の目的 (ゴール)	・官民対話の基本事項の共有 ・提案概要の説明を受け、次回対話の論点、課題を明確化する。
----------------	--

◇協議内容(主な意見)

1.事業実施内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・提案に対し評価をするのではなく、提案内容を実現可能なものにするため提案者と町とアドバイザーと対話を重ね、共同で事業スキームを作り上げていくことを目的とした官民対話である。(三田) ・多種多様な事業内容について、優先順位の検討が必要ではないか。(西野) ・自立した運営には、宿泊機能はなくてもよい気がする。(西野) ・宿泊機能の設置が提案の要件となっていたため、このような提案となった。部屋数が少ないため宿泊業としては採算が合わないため、損失を出さないような宿泊機能を考えると、DV、虐待、災害等の避難場所としての活用となった。(藤原) ・一般企業が事業を実施する場合、選択と集中があり得意なことを伸ばし、苦手なところを他に委託する形もある。(西野) ・すべてできるとは思っていないが、とりあえず、すべて福祉会で実施する形で提案した。宿泊機能を別の方に任せるという方法も可能である。(藤原) ・今回の提案では、経営が安定している農産加工に付随して、様々な事業が提案されている。農産加工に特化した仕様もあり得るし、得意な部分、苦手な部分を整理することで次の道が見えてくるのではないか。(安達) ・農産加工所、ケーキ工房をリフレかやの里に集約すると、職員の配置等の効率化ができ、収益が上がる。収益が上がれば、利用者の賃金も上げることができる。(藤原) ・食に関することをしているのは、農産加工、ワークセンター花音、野田川共同
--------------	--

	<p>作業所がある。それぞれ、老朽化しており、かつ 3 つの施設で同じ機械を所有しているためコストがかかっている。よさのうみ福祉会の課題として施設の統合、経営のスリム化が課題であるため、リフレかやの里にひとつにまとめ効率化を図りたい。(藤原)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な事業があるが、利用者にとって多くの仕事があるほうがよいのか。(西野) ・現在している事業は、利用者の就労場所の確保のためにも継続しなければならない。(藤原) ・よさのうみ福祉会として、利用者は今後も確保していかなければならない。支援学校の卒業生に事業所として選択してもらうことを考えると、多くの仕事があるほうが、利用者の確保につながる。障害者の就職先が少なくなっている中、労働意欲のある障害者に来てもらい、就労支援を行っていききたい。(矢嶋) ・以前の営業形態のレストラン、お風呂、宿泊をやめて提案内容の事業を実施すると利益はでる計算となっている。(矢嶋) ・町の方針として公共施設は、町が所有し運営しなければならない施設しかもたない。リフレかやの里の本館機能はそれに含まれていない。公共施設総合管理計画からは譲渡が前提となってくる。今の条例から外れた提案であっても利益がでて継続的に運営できるのであれば譲渡の可能性はある。(三田) ・福祉分野での活用のため、福祉課等を交えた対話を実施したい。(三田) ・事業所の統合による、経費、職員数等の精査が必要。(三田)
2.改修について	<ul style="list-style-type: none"> ・提案をみると改修にコストが大きくかかる部分を予定されている。改修について段階的に実施する方法がある。ビジネス的に考えると改修費用が大きくなり厳しいかなと思う。(西野) ・改修費について、クラウドファンディング等他の方法も検討すべき。福祉事業での展開のため、支援者が多く集まる場合がある。(西野)

<p>次回の日程と論点</p>	<p>開催日（予定）：令和 6 年 4 月中旬</p> <p>■ 論点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案内容の優先順位について協議 ・現状と事業所統合後の整理、比較
-----------------	--

資料	①提案の基本事項（（福）よさのうみ福祉会）
----	-----------------------